

北伊予青パト隊（愛媛県）



北伊予青パト隊（愛媛県）

～地域総ぐるみで子どもの安全を守っています！～

発表者 北伊予青パト隊

失礼いたします。私、愛媛県の松前町青少年補導センターの小笠原と申します。
お願いいたします。

1 活動地域



まずはじめに、松前町を少し紹介いたします。我が松前町は県都松山市の西南に位置し、西は伊予灘、山はなく平地ばかりの人口約3万人の町であります。町内各所には湧き水が見られ、親水公園も整備され、豊富な水と肥沃な土地を生かした農業、特に裸麦は県下一、二を争う産地であり、水産業においては珍味生産日本一ということで、大きな工場や大型ショッピングモールも有して、農業・水産業・工業・商業がバランスよく発展している町であります。

本町は、松前・岡田・北伊予という三つの校区に分かれており、校区ごとに小学校・中学校を一枚ずつ有しております。本日発表の北伊予校区は、住民7,200人、小学生約400人、中学生230人となっています。青パト隊員は三つの校区ごとに編成されており、全部で59名おります。

「子どもは地域の宝」と申しますが、本町において、この青パト隊員の方々は、子ども・青少年を守る「地域の宝」であります。言い方を変えると、このような隊員の方々のおかげで地域の子どもたちは守られていると、大変感謝をしております。

では、これから実際に北伊予校区で中心になって活動しておられます大政博幸さんが、その活動をご報告いたします。

それでは、発表をさせていただきます。北伊予校区青パト隊員をしております大政博幸といたします。大政というのは、清水港で皆さんご存知かと思いますが、「大政・小政」の大政でございます。どうぞよろしく願いいたします。

2 青パト隊の目的と組織

・目的

北伊予校区内の児童、生徒の安全を確保するとともに、補導の対象となる未成年者の犯罪抑制と明るいまちづくりを推進すること

・組織

北伊予校区青少年育成会会長、防犯相談所長、交通安全協会北伊予支部長、少年警察協助手員、青少年補導員、おやじの会会員、学校関係者など 18名が所属隊長を中心に組織的に活動を行っている

青パト隊の目的と組織

北伊予青パト隊は、北伊予校区内の児童生徒の安全を確保するとともに、補導の対象となる未成年者の犯罪抑止と明るいまちづくりを推進することを目的として、平成19年度に設立されました。隊の編成は、北伊予校区青少年育成会会長、防犯相談所長、交通安全協会北伊予支部長、少年警察協助手員、青少年補導委員、おやじの会（北伊予小・中学校PTA会員、OB）など、多様な構成により組織されています。令和7年4月1日現在で18名の隊員が所属しています。隊長を中心に組織的な活動を行っています。

3-1 活動内容（毎月5日の防犯の日）



防犯の日集まった隊員と関係者



青パト隊パトロール車両

活動内容①：毎月5日の「防犯の日・青パトの日」

毎月5日を「防犯の日・青パトの日」と定めており、北伊予校区にある東公民館に青パト隊員、地元駐在所の警察官、学校教諭等が集まり、子どもたちの様子、子どもたちを取り巻く環境変化、パトロールの点検報告などの情報交換を行っています。

情報交換の内容を少し述べてみます。

一つ目、子どもの登下校の様子。校区には九つの集落があります。子どもの数は大小ありますが、それぞれの地区から隊員が子どもたちと一緒に安全に登下校ができているか見守っています。

二つ目、道路危険箇所の点検。通学路において、道路の陥没箇所や塗装の薄い箇所、または水路の状況をチェックし、異常があった場合には各団体の方に報告をし、改善を求めています。

三つ目、駅点検の結果。校区にはJRの無人駅が二か所あり、月2回、三コースに分かれて点検しています。結果は報告用紙に記入をしています。

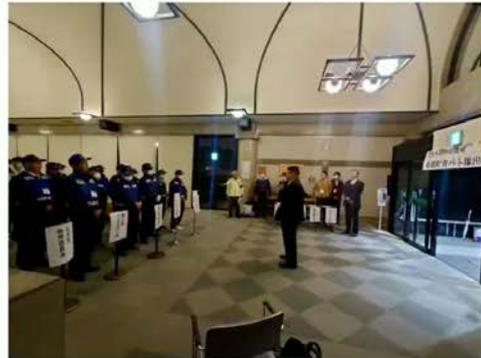
四つ目、学校からの報告。学校内における生徒の生活情報を逐一報告をいただいております。

五つ目、警察からの報告。駐在所長が出席し、犯罪・非行の報告をいただきますが、校区内では大きな犯罪・事故や事件の発生はありません。

六つ目、交通状況。交通安全協会からは、春秋の安全週間の取り組みやパトロールの計画・実施等の報告があります。春には新一年生へランドセルカバーの贈呈、安全旗の更新や交差点における危険箇所への看板設置をしています。

情報交換後は、北伊予校区を東西の区域に分け、それぞれの区域を各月でパトロールをしています。また、愛媛県では、毎月20日を「交通事故死ゼロを目指す日」と定めています。

3-2 活動内容（年末年始の特別警戒）



年末年始特別警戒出発式の様子（管轄の伊予警察署にも激励の言葉をいただきます）

活動内容②：年末年始の特別警戒

年末年始は帰省や旅行による交通量増加、冬期の路面状況悪化などによる交通状況の変化等により事故が増加するため、積極的に青色回転灯を点灯させてパトロールを行っています。写真は出発式の様子です。北伊予青パト隊以外にも松前、岡田の各地区の隊員や商工会の青パトメンバーが集まって出発式を行っています。右は管轄の伊予警察署生活安全課長から激励の言葉をいただいているところであります。

出発式後、北伊予校区の隊員は地域の東側・西側の二班に分かれて30分程度パトロールを行います。一昨年の出発式は、大雪警報が出ている中で実施をしましたが、伊予署の課長に「本日は大変危険なため、パトロールはほどほどにして気をつけて帰ってください」というお言葉をいただいたのが良い思い出です。

3-3 活動内容（JR各駅の点検）



地域内のJR駅の点検

- ・ 放置自転車の点検（左上）
- ・ 点検結果のメモ（右上）
- ・ 構内自由通路の点検（右下）



活動内容③：駅の定期パトロール

北伊予校区にはJRの駅が二駅あり、子どもの利用も多いため、定期的にパトロールしています。駅の周辺や駐輪場が荒れていないか、またトイレや待合所が清潔に保たれているかと点検をしています。危険な場所や、子どもたちがいたずらしたと思われるようなものを発見した場合は、学校等に共有するとともに、関係機関に連絡して改善を求めるようにしています。この活動は月に一度程度行っています。また、年に一度、放置自転車と思われる自転車を特定し、警察署や役場と連携して対応をしています。

3-4 活動内容（通学見守・点検）

- 通学見守

 - 県道交差点の押ボタン信号など危険個所で通学補助

- 危険個所点検

 - 危険個所を関係機関に連絡し改善を要求

危険個所改善の一例

通学路となっている県道の一部に
歩道がない

- 迂回路は狭く危険
- 迂回路を拡幅工事
- 迂回路を通学路として利用



活動内容④：通学の見守り

通学の見守りについては、交通安全運動期間中や普段の通学において、県道の押しボタン信号の交差点や県道が交差している交差点など危険な場所で横断の補助を行ったり、通学班に付き添って見守りを実施したりしています。

また、地域の通学路となっている県道で、諸事情により一部だけ歩道が整備されていないところがあるのですが、その道路の迂回路となっている道路が写真に掲載されている道路です。歩道のない県道は通行量がかかり多くなっており、子どもたちにとって危険な場所でした。そこで、この迂回路が県道に代わって通学路として利用できないか青パト隊から関係機関に相談したのですが、路肩が整備されておらず、道路幅が狭いということで、通学路には適さないという回答が来ました。そこで町に働きかけ、写真の通り道路を整備していただき、通学路として利用できるようになりました。

また、その他にも危険な場所に「キケン」の赤旗を設置したり、設置した赤旗が劣化していないか等の点検もしております。定期的な研修会にも参加しており、伊予署と役場で開催する青パト講習会を三年に一度受講して、古い知識や情報を更新しながらパトロールを行うようになっています。

5 課題・問題

- 一部の隊員に負担が集中
駅の点検、通学見守りなどを実施する隊員が固定化されている
- おやじの会メンバー（PTA関係者）の参加
コロナ禍以降、参加できていない状況が続いている
- メンバーの高齢化
主要メンバーの多くが70歳以上となっている

課題と問題点

課題と問題については、次の点が挙げられます。

一つ目、一部の隊員に負担が集中しています。隊員ご本人さんは負担というより義務感に駆られて一生懸命やっただけというのが現状であります。周りから見ると、一部の隊員さんだけが駅の点検を実施したり、通学の見守りを実施したりしているように見えてしまっている状況です。活動はボランティアであり、できる範囲でできることをやっていただくことが活動を長続きさせる秘訣であると思いますが、逆行してしまっているというのが懸念される点です。展望のところでもお話ししますが、隊員の世代交代の足かせになっていると思っています。また、コロナ禍に親世代である「おやじの会」メンバーがパトロール等に参加できなくなってしまい、そのまま活動に復帰できない状況が続いています。「自分たちの子どもは自分たちで見守ろう」ということで、初期から参加していただいていたので、無理のない範囲で活動に復帰してほしいと思っています。とはいえ、お仕事忙しい方たちでありますので、こういった活動が可能かどうか、しっかりと話し合っていく必要があろうかと思っています。

二つ目、おやじの会の経緯について触れます。平成10年、私、PTAに携わっていました。当時、小学校の教頭先生から提案を受け、一年かけて発足しました。地元公民館に講師を招き、その時々テーマで開催しました。「教育現場を父親に知ってもらいたい」というのがテーマでした。会には教育関係者や保護者など50人くらいの参加がありました。5年間ぐらい続いたと記憶しております。

三つ目、メンバーの高齢化と後継者選びです。近年、職場で働く人の定年年齢が伸び、65歳以上の人でも働いている人が多く、主要な隊員の年齢は70歳以上が中心です。パトロールや点検、通学見守り等がしんどくなってきています。高齢者の事故が社会問題となってきており、車でパトロールする青パト隊にとって、高齢化と後継者選びは頭の痛いテーマです。

6 今後の展望

- 無理のない活動の継続
現在の隊員の行動力が高い⇔次期隊員のハードルが高い
⇒隊員の役割分担の見直し・活動を求めない
- おやじの会メンバーの協力
若い力・当事者世代の協力は必須
- 隊員の世代交代
「子どものため」少しでも活動できる隊員の確保

今後の展望

今後、北伊予青パト隊が活動するにあたり、次の三点に配慮していきたいと考えています。

一つ目、無理のない活動の継続。問題点でも述べましたが、一部の隊員に積極的に活動していただいている状況は、今後の隊の継続を考える上では重要ですが、隊員の役割、活動内容の改善、負担の軽減、無理のない活動での継続が肝要だと思います。

二つ目、「おやじの会」メンバーの協力。先ほど課題のところでも申し上げましたが、若いうちからお父さんの協力が不可欠であります。キーワードは「お父さん、あなた、出番です」。

三つ目、隊員の世代交代。これからの時代は、できる範囲でできることをみんなで協力してやっていくことが重要だと思います。そのためには特定の人に負担が集中するのではなく、「自分の地域は自分たちで良くする」という気持ちが大切だと思います。

7 北伊予青パト隊 まとめ

- 未成年者の安心安全のため、子どもに関係するメンバーで発足
- 隊長を中心に関係機関と連携して活動
毎月5日青パトの日・防犯の日に定例会&パトロール
特別警戒・通学補助・駅点検・講習の受講
- 時は流れ活動が集中・縮小
活動が特定の隊員に集中、参加隊員の減

地域の子どもは地域で守り育てるために、活動を続けていく！

北伊予青パト隊のまとめ

北伊予青パト隊は未成年者の安全安心のため、子どもに関係するメンバーで発足されました。隊長を中心に関係機関と連携して活動し、危険箇所などを発見した場合は関係機関に改善を求めています。しかし、現在は活動が縮小しています。隊員個々も忙しい中、隊員全員でコミュニケーションを取りながら、学期が終わった後には反省会を開き、飲みながら問題の本音をぶつけています。北伊予の子どもたちのために、できる活動を続けていくことが大切だと思います。今後においても、末永く北伊予青パト隊が活動できるように、活動内容や役割など、隊員や地域の皆さんと意見交換をしながら、「地域の宝は地域で守り育てる」という輪が広がるような運営をしていきたいと考えております。

ご清聴ありがとうございました。

■ 講評・質疑応答

【福山大学 大杉 朱美 先生】

はい、福山大学の杉と申します。改めましてご発表どうもありがとうございました。非常に長く活動されており、今現在はメンバーが少なくなってきたとおっしゃっていましたが、ただ、いろいろな構成メンバーを集めて積極的に活動してくださっている状況がすごく伝わり、感銘を受けているところでございます。

一つ、とても素晴らしいなと思ったところが、情報交換を積極的に行っているということですね。毎月5日に集まって、実際に学校や警察も含め、活動や地域の状況の報告をされている。対面で集まり、本当にフェイス・トゥ・フェイスで状況の確認をしながら、今後どうやっていこうかというお話をされているのは、すごく活動の継続にも大事なことではないかと思っております。最後に継続についてのお話もありましたけれども、それでもやはりこう毎月しっかりと集まっていらっしゃるということは、すごく心強いなと思っております。

それから情報交換の内容につきましても、非常に細やかな点検をされていたり、本当に細部にわたっていろんな情報を共有されているということで、本当に頼もしいと言いますか、地域の皆様の思いに応え、役に立つような共有をされているなど実感いたしました。

質問を一つだけさせていただければと思うんですけど、「おやじの会」のお話がありまして、すごく親近感もありますし、「お父さんが守るんだぞ」「お父さん、あなた出番です」というキーワードも素敵だなと思いました。一方で、なかなか成り手がなくなっているのも、どうしてかなと私なりに考えていたんですけど、私はおやじではなく「おばさん」ですかね、母親であるわけなんですけれども。

最初、時代もあったと思いますが、お父さんにぜひというところから始まったと思うんですね。私のような「おばさん」が入る余地があるのかどうか。人を集めていくにあたって、その「おやじ」を集めたきっかけともう一つ、今後、性別に限らず「おばさん」が入る余地があるのか、そのあたりのお考えをお聞かせいただけたらと思います。よろしく申し上げます。

【発表者（大政氏）】

「おやじの会」の発足については、学校の行事、例えば運動会にはお父さんも結構積極的に参加されていました。平成10年頃の話ですが、今もそうです。しかし、参観日、入学式、それから卒業式にはお父さんはあまり見かけないんですよね。これである時、小学校・中学校から困りごとがありまして、お父さんを引き出すために「日曜大工で学校に困りごとはないか」と言いましたら、体育館の講堂の上のところから上がる階段が劣化してひびが入っていたので、応急処置はしていましたが、そういうところから手掛けて、「手伝ってくれませんか」と募集したんです。そしたら、20人ぐらい集まってくれて、工具から釘から全部持ってきてくれて、そういうことの改修をしたりしました。中学校では、駐輪場の屋根があるんですけど、雨が降った時に土が流れて水はけが悪かったので、そこを整備してグレーチングをはめたり、野球場のネットの横側に植えてあった芝生の張り替えをしたり、いろんなことに汗を流しました。それから夏休みに1回はボランティアで学校内の清掃、木の伐採などをしたりして、その作業は今も続いております。

もう一つの、お母さんがそういうところに入ってくるかということですが、私は自分が発足した

経緯があったものですから、先ほども言いましたけど、公民館で討論会のようなことをしました。お父さんが発表するわけですから、恥を忍んで、で、そういうことをやって絆を繋ぎながら現状まで来ているんですが、ご存知のようにコロナ禍で、その活動がだんだん今は尻すぼみになってきています。それを次世代の人にどのようにつなげていくかが我々の仕事かなと思っております。以上です。

【福山大学 大杉 朱美 先生】

ありがとうございます。おやじで集まる良さみたいなものをすごく感じました。私も小学校の時に、そういえば父親世代、お父さんたちが大きな遊具を直していたなというのを思い出しまして、非常に温かい気持ちになりました。

もう一点だけすみません。この隊員をどう増やすかという話で、今の「おやじ」たちも働きながらだと少ししんどいんじゃないかという話もありましたけれども、例えば、冒頭のお話の中で、非常に地域としてバランスよく栄えている地域であるとおっしゃっていたと思います。企業やお店なども多いのではないかと想像したんですけれども、最近「防犯 CSR」みたいな形で、企業が社会的責任を果たすために防犯活動を推進するという動きもあったりすると思うんですね。働いている方々が、例えば会社の仕事としてだったり、企業がこの青パト隊の活動に理解を示して協力してくれるとか、そういう方向性もあるのかなとちょっと思ったりしましたので、地域によってできる・できないは色々あるかとは思いますが、いろんな方向性を探っていただいて、活動を続けていっていただけたら嬉しいなと思いました。私からは以上です。ありがとうございます。

【発表者（小笠原氏）】

ありがとうございました。企業について言われたんですけど、今、松前町では商工会というのがありまして、その商工会青年部という方が現在も 13 名、青パトの活動をずっとして下さっております。また、そういう企業の中に働きかけていくことも大事だなと思います。はい、ありがとうございます。

吉備国際大学「ももパト隊」(岡山県)



はい、これから吉備国際大学ももパト隊の発表を行います。

岡山県の高梁市というところにある私立大学の吉備国際大学から来ました、住田春輝です。よろしくお願いします。

同じく吉備国際大学から来ました、北原太一と申します。よろしくお願いします。

活動地域

- ・岡山県中西部に位置する**高梁市**を中心に周辺地域を含め活動中
- ・県内三大河川の高梁川や天空の城と称される備中松山城があることで知られます



まずは活動地域についてです。岡山県の中西部に位置する高梁市を中心に、周辺地域を含めて活動を行っています。高梁市には県内三大河川の高梁川や、天空の城と称され雲海で有名な備中松山城があることで知られています。人口約2万5千人の小さな市であると同時に、高齢化率は42.5%と県内で最も高くなっており、少子高齢化が課題となっています。

団体の概要

- ・ **吉備国際大学 ももパト隊**
➡吉備国際大学の**ボランティアセンター**に
所属する**大学生**で構成
- ・ 平成22年7月～
岡山県警の主導で学生防犯ボランティア団体
「ももパト隊」として発足

次に団体の概要についてです。ももパト隊のメンバーは、高梁にある吉備国際大学のボランティアセンターに所属する大学生で構成されています。このボランティアセンターは大学が設置したもので、主にボランティアと学生をつなぐ役割を果たしています。私たちはももパト隊として活動する一方、このボランティアセンターでボランティアに関わる企画運営などを手掛ける学生スタッフとしても活動をしています。小学生以下の子どもたちを対象にして行う手作り遊び教室や、生活困窮家庭に食糧支援を行う順正デリシャスフードキッズクラブなどの活動を定期的に行っています。

様々なボランティア活動を行う中で、ももパト隊として防犯ボランティアの活動も行っています。そんなももパト隊は、平成22年7月に岡山県警の主導で結成された若者防犯ボランティア団体「ももパト隊」として発足しました。

- ・ 目標は…

**地域に密着した特色のあるボランティア活動
学生の立場を生かした安全・安心なまちづくり**

※地域防犯と子どもたちの安全確保、交通事故防止、
大学生の規範意識の向上…等を目指す

- ・ 岡山県学生防犯ボランティア連絡会
「おにたいじ」の一員としても活動

目標は、「地域に密着した特色のあるボランティア活動」および「学生の立場を生かした安全安心なまちづくり」を目指して、地域防犯と子どもたちの安全確保、交通事故防止、同年代の大学生の規範意識の向上などに取り組んでいます。また、現在は岡山県学生防犯ボランティア連絡会「おにたいじ」の一員としても活動を続けています。

ももパト隊の主な活動内容



小中学生の登校を見守る
朝のあいさつ運動



学生が自ら企画
防犯寸劇「ボラレンジャー」

次に、ももパト隊の主な活動内容についてです。

ももパト隊では、主に小中学生の登校を見守る「朝のあいさつ運動」と、学生が自ら企画した「防犯寸劇ボラレンジャー」の二つの活動を行っています。



朝のあいさつ運動

- ・毎週月曜日の早朝、JR備中高梁駅周辺の交差点に立ち、あいさつとともに**小中学生の登校を見守る活動**です
- ・平成17年頃から、約20年間続けており、「朝の顔」として、大学生の活動が定着しています

朝のあいさつ運動では、毎週月曜日の朝7時から、ももパト隊のメンバーの大学生がJR備中高梁駅前の交差点に立ち、「おはようございます」の挨拶とともに小中学生の登校を見守ります。子どもたちからも笑顔で挨拶を返してくれるお兄さん・お姉さんとして認知をされています。平成17年頃から約20年間続けており、高梁市の朝の顔として活動が定着をしています。

- ・大学の1限目の授業がない時など、時間的に余裕があれば、不定期に街角の**清掃活動も実施**します

活動目標

地域住民との関わりを深める

子どもたちの安心・安全を守る

自分たちが暮らす街をきれいに



また、大学の1限目などの授業がない時など、時間に余裕がある時には街角の清掃活動をしています。この活動は、三つの目標を大切にしています。

一つ目が「地域住民との関わりを深める」です。朝にすれ違う人に大きな声で挨拶をすることや、毎週行っていると顔なじみができてくるので、少し声をかけたりするなどして、地域住民とのつながりを実感できます。

二つ目は「子どもたちの安全安心を守る」です。事故が起こらないように周囲の様子に気を配ったり、交差点では車の動きを確認して安全な通行を促しています。特に朝の時間帯は交通量も多いため、子どもたちが安心して登校できるように細かなところにも注意を払っています。

三つ目は、「自分たちが暮らす街をきれいに」です。比較的ごみが少なくきれいな街ではありますが、タバコの吸い殻が落ちていることがあります。そういった小さなごみを見逃さずに拾うことで、より良いまちづくりにつながると思います。

これら三つの目標を掲げて、朝のあいさつ運動の活動を行っています。

防犯寸劇「ボラレンジャー」

活動の概要

地域の高齢者や同世代の学生の**防犯意識向上**を目的として、寸劇を披露する活動

寸劇という形式にすることで

楽しく

分かりやすく

防犯意識を高められる内容になっています



ヒーロー
「ボラレンジャー」

はい、それではここからは、私北原がもう一つの活動である防犯寸劇「ボラレンジャー」についてご紹介します。この活動の概要としましては、主に地域の高齢者や私たちのような同世代の学生の防犯意識の向上を目的として寸劇を披露する活動になります。主に披露しているものは、やはり高齢者向けの特殊詐欺防止寸劇が中心です。

その寸劇の中に登場するのが、この私たちのオリジナルヒーローである「ボラレンジャー」になります。こういった、実際に目の前で演じる寸劇という形にすることによって、楽しみながら視覚的にもわかりやすく防犯意識を高められるような活動になっております。

活動の成り立ち

別の活動…
地域のお祭りやイベントなどで地域住民の方から



最近詐欺が
増えてて、不安
なんよなあ…

という声を聴き

「私たちになにかできることはないか…」
そう考えました

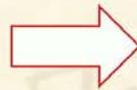
そこで…

それではまず、この活動の成り立ちについてご説明します。

私たちももパト隊は、他のボランティア活動も様々行っており、その中で地域のお祭りやイベントに参加しています。そうした中で、地域住民の方々とよくお話する機会があり、そのお話の中で「最近詐欺が増えてて不安」という声を聞きました。そういった声を聞き、「私たちには何かは何かないか、学生の立場から何かできることはないか」と考えました。

活動に向けての準備

実際に地元の警察署まで赴き



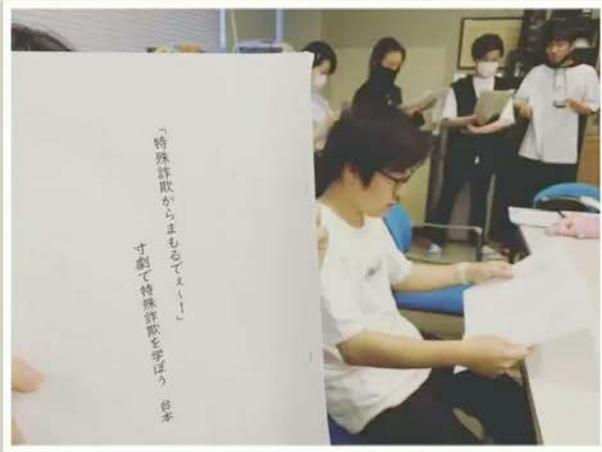
「特殊詐欺」や「闇バイト」につい
てのレクチャーを受けました！

ボラレンジャーが誕生！

そこでまずは知識を得るところからだ、実際に地元の警察署まで赴き、特殊詐欺や闇バイトについてのポイントなど、どういったところに気を付ければいいのか、レクチャーを受けてまいりました。

これらのことをよりわかりやすく、楽しく伝えるために、このヒーローであるボラレンジャーが誕生しました。こうして防犯寸劇ボラレンジャーが始まったというわけです。

寸劇の企画・台本・道具作成・練習まで、すべて**学生主体で準備**



寸劇の練習風景



道具も学生自ら手作り

そして、準備についてですが、この寸劇というものは企画から台本、そして劇で使う小道具の作成、練習まですべて学生が主体となって準備しております。奥側の写真は寸劇の練習風景で、こういった台本などを作って放課後などに皆で集まり、セリフ合わせといった練習を行いました。手前側の写真は道具作りで、これも学生が自ら手作りしております。完成した小道具がこちらで、劇で使う ATM や金庫、家具といったものを作り開催に臨みました。

特殊詐欺被害防止の啓発寸劇

老人クラブやボランティア団体の会合等で披露

寸劇披露後には
注意ポイントの解説や交流会も



このような準備を経て、これまで老人クラブやボランティア団体の会合等で披露させていただきました。寸劇披露後などには、注意ポイントの解説をスライドで行ったりしました。寸劇だけでは補足しきれないところもありますので、スライドの形で行ったり、またこの活動は地域との交流も兼ねており、このようにお茶を囲んで交流会なども行ったりしました。

寸劇の内容を少しだけ話させていただきたいのですが、ある日「直に振り子」さんという名前のおばあさんのもとに一本の電話がかかってきます。それは市役所職員を名乗る者からの電話で、医療費の還付金があるという内容なのですが、もちろんそれは詐欺グループからかかってきた電話になります。それを信じてしまった振り子さんがコンビニのATMに振り込みに行ってしまう、といった内容になっています。

活動の広がり

昨年度からは、子どもたちを対象にした
不審者注意寸劇にも取り組んでいます



他大学と合同でコラボ寸劇も行っています



また、この防犯寸劇というのは、特殊詐欺の防止啓発寸劇だけではありません。昨年度からは、子どもを対象にした不審者注意の寸劇などにも取り組んでおります。主に学童保育などで開催しており、内容としてはいわゆる「いかのおすし」のようなものについて行いました。この画像のように大きな紙芝居などを使って、子どもたちにより視覚的にわかりやすいように、また楽しんでもらえるように工夫などを行っています。

さらに、岡山県の津山市にある美作大学さんとのコラボで、こちらも子ども相手に合同寸劇というものも行ったりしています。美作大学さんにもボランティアセンターがあり、また「ミマダイン」というヒーローもいるので、そういったつながりでこの合同寸劇を行うことになりました。この寸劇からは、今まで特殊詐欺グループのような人間が悪役をしていたのですが、真ん中の怪人を登場させ、より子どもたちに楽しんでもらえるよう、もっとヒーローショーに近づけていくような形にしたりしております。

この活動は、特殊詐欺防止寸劇、不審者注意寸劇を合わせて昨年度は合計3回ほど実施しております。基本的には地域からの要望などに合わせて実施する形になっており、今年度も昨年度と同じく年3回ぐらいを目標として行う予定です。

その他の活動

- ・ 闇バイト防止啓発活動（チラシ作成）
- ・ 薬物乱用防止キャンペーン
- ・ 警察署と協力した防犯や交通安全イベント など



挨拶運動や寸劇以外にも、ももパト隊は様々な活動に取り組んでいます。

例えば、闇バイト防止啓発活動として、闇バイトの注意喚起チラシを作り学内などで配布したり、他にも警察の方と協力して防犯や交通安全のイベントに出席したり、高梁にある高校で薬物乱用防止キャンペーンの一環として啓発グッズを配り、声かけを行ったりしています。

この写真を見ていただいたらわかると思うのですが、ボラレンジャーは寸劇だけでなく、こういった活動などにも出ており、ボランティアセンターのももパト隊としての顔としてかなり動いているという形になっております。

活動の課題

- (1) 大学生が自主的なボランティア活動に取り組むため、
授業やアルバイトで人数がそろわないことが多い
➡朝の活動や寸劇の練習に時間を当てるのが難しい
- (2) 地道な活動そのものを、地域住民の方々やほかの大学生に**周知・認知してもらうのに時間がかかった**

最後に、我々の活動にも課題というものはつきものです。私たち大学生という立場ですので、ボランティア以外にも授業やアルバイト、サークル活動などを行う人はとても多いです。そのため、人数がそろわないことが多いです。朝の活動は月曜日の早朝に行っていたり、寸劇の練習も放課後ということで、なかなか時間を割くのが難しいという人が多いです。また、これらの地道な活動そのものを、地域住民の方や他の大学生に認知してもらうのに少し時間がかかりました。

課題の解決に向けた取組方策

- (1) 参加する学生にとって負担が少ない活動とするために、朝のあいさつ運動では**ローテーションを組む**
➡特定のメンバーに負担がかからないように
- (2) 警察署と連携し、防犯や交通安全等の**イベントに積極的に参加する**
➡**メディア等で取り上げられる**ことが多くなり地域での認知も高まった
➡活動の様子をInstagramなど**SNS**にこまめにアップすることで、多くの**市民の目に触れる機会が増えた**

この課題を解決するために取り組んでいることですが、まず一つ目の人数が足りないという点に関しては、参加する学生にとってなるべく負担が少ない活動とするために、朝のあいさつ運動などではローテーションをできるだけ組むようにしております。特定のメンバーに負担がかかってしまっては大変ですので、できるだけ負担がかからないようにしています。また、寸劇の練習においても、学生同士でしっかりと話し合い、集まれる日を決めております。

知名度に関しては、できるだけ警察署の方と連携をして、防犯や交通安全等のイベントに積極的に参加するようにしました。そうする中で、メディアなどに取り上げられることがかなり多くなり、地域での認知も高まったように思います。また、活動の様子などをInstagramをはじめとしたSNSにこまめにアップすることによって、多くの市民の目に触れる機会がかなり増えたかなと思っております。

これにて、私たち、ももパト隊の活動報告を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

■ 講評・質疑応答

【福山大学 大杉 朱美 先生】

はい、ももパト隊の皆さん、ご発表どうもありがとうございました。私も普段大学におられますので、大学生がこうして発表もして、さらにいろんな活動をされているというところを、すごく嬉しいなと思いながら聞いておりました。大学生が朝7時から活動するなんて、皆さん信じられますか？私、大学にいますので余計思うかもしれないんですけど、大学生は朝、非常に弱いわけです。まあそれを乗り越えて、毎週、朝から頑張っているというところで、ものすごく素敵な活動を皆さんされているなと思いました。

あと、ボラレンジャーですね。すごく面白いなと。しかも県内に他にもヒーローがいる大学があったんだということも驚きまして、うちの大学にはヒーローがいませんので、また教えていただければなと思いながら聞きました。

二点、まずお伺いしたいなと思うんですけども、まず一点目は、メンバーが何人ぐらいいらっしゃるのかということ。すみません、私が聞き逃しただけかもしれないんですが、何人ぐらいのメンバーがいるのか。それから、大学のボランティアセンターが統括しているということだとは思いますが、どんな学部学科のメンバーが多く所属しているのかということが少し気になりました。それに合わせて、学生主体だと教えていただきましたけれども、顧問のような教員なりセンターの職員さんなり、何かまとめるような学生じゃない方が入っているかどうか少し気になりましたので、教えていただければと思います。まずその一点目をお願いします。

【発表者（北原氏）】

はい、ありがとうございます。我々ももパト隊というか、順正学園ボランティアセンターの参加人数に関しましては、主に60人ほど所属はしているのですが、大学生ということで、約半数の30人ほどが積極的に活動しているというような状況になっております。

所属している学生たちの学部ですが、吉備国際大学は学部数が多いのですが、ある程度決まっています、主に多いのが心理学科と、私がそうなのですが経営社会学科、その学生が多いのと、あとアニメーション文化学部というものがあまして、その学生もちらほらいたり、理学療法、作業療法といった学科の学生もちらほらいるといった感じです。

そして、顧問の方が今日来られているのですが、顧問の方もおられまして、大学の機関の一つということになっており、職員さんの方が3名おられて、その方に顧問としてついてもらった上で、学生たちが主体的に活動するといった内容になっております。

【福山大学 大杉 朱美 先生】

はい、ありがとうございます。いろんな学部、学科の学生さんが集まって活動されているということで、すごく幅が広がりそうだなと思いながら聞きました。後で私も少しお話ししますが、私は心理学をやっていますので、うちの大学は心理学のメンバーが多いんですけども、アニメの方だったり経営だったり、色々な学科ごとに学びがあると思うんですね。その学びを活動に生かしていけるのが大学の魅力かと思いますので、そういうところもまた今後考えてもらえたら嬉しいなと思いました。

もう一点、顧問やセンターの方がいらっしゃるということなので、そこからなのかもしれないですけど、ボラレンジャーの衣装を作ったり、寸劇の家具を作ったりとか、どうしても経費がかかってくると思うんですね。そういう経費をどうされているのかということも、ぜひ皆さんも知りたいところなんじゃないかなと思うので、教えていただけますでしょうか。

【発表者（北原氏）】

はい、ありがとうございます。その経費などに関しまして、私たちが把握しているところも少なくはあるのですが、大学からの予算というものもありますし、他にもシグマ・ソサエティ、ソロプチミストという団体の方々が支援してくださったりもしております、そこからの資金を使っているという感じになります。

【福山大学 大杉 朱美 先生】

はい、ありがとうございます。大学である程度予算を確保してくれていて、かつ他の団体からの支援もあるということですね。わかりました。ありがとうございます。

大津地区タウンポリス（高知県）



大津地区タウンポリス(高知県)

まだまだやるぞ。タウンポリス！

気楽に、気長に、安全に！

皆さんこんにちは。高知県から今日来ました、高知県大津のタウンポリスの代表をしています、田所と言います。よろしくお願ひします。それでは、私たちの大津地区タウンポリスの活動について紹介したいと思います。

私たち大津地区タウンポリスは、高知県高知市大津地区を中心とした、犯罪や各種事故などの防止を目的として活動している団体です。まず皆さんに高知県、そして高知市大津の場所について地図により紹介します。



高知県は東西に長く、東は室戸岬・東洋町から、西は足摺岬・大月町まで34市町村があります。高知市は真ん中に位置し、観光スポットとしては「南国土佐を後にして」で歌われている桂浜、はりまや橋や、最近ひろめ市場が有名です。8月にはよさこい祭りが開催され、約190チーム2万人が参加する予定です。

私たちが活動する大津地区は、高知市市街地から約7kmほど東に位置し、東西に主要道路や路面電車、JR土讃線が走っています。交通の利便性等の地域条件から、旧来からの住宅地に新たな団地・住宅地の建設や食品団地等の進出に伴い、急激に人口が増加してきました。それに伴って、地域の生活環境は、交通量の増大と昼間家を留守にする家庭が多くなり、空き巣、不審火等、地域の安全が懸念されるようになりました。

そのような中、以前から地域の犯罪や各種事故の発生を心配していたところ、地域で女性を狙ったわいせつ事件が多発したことが発端となって、地元有志と地域安全推進員が自主防犯組織の設立に奔走し、平成15年10月14日に「大津関・長崎地区タウンポリス」という団体を結成したのが始まりです。

タウンポリス初代メンバー



5

ここにある写真が当初のメンバーです。当時は、自分たちの地域住民からのアンケート調査を行って、不審者の出没地域や危険場所を把握して地道な活動をしていましたが、この活動に賛同される地域住民の方や、設立メンバーの声がけによって活動していただける会員も増えてきました。

発足当時は、児童生徒の登下校時、夜間パトロールに徒歩や自転車によって、主に高知市大津地区の中の「関・長崎」という限られた地域の自主防犯活動を行っていました。

青色パトロールカー出発式



6

しかし、平成 17 年 8 月に高知県防犯協会から、高知県内唯一の直轄パトロール部隊として委嘱を受けるとともに、青色回転灯装備車両（以下、青パトと言います）を貸与されたことにより、一気に活動範囲が広がり、限定された地域を守る活動から街全体を守る活動へと進化しました。そして、平成 20 年 7 月 28 日に団体名も「大津地区タウンポリス」と改め、女性 3 名を含む合計 15 名で再始動しました。

これまでの地道なパトロールと青パトの機動力を有効に組み合わせることによって、毎週月曜日の登校時間帯における児童見守りパトロール、地域行事への積極的な参加、少年補導活動、学校行事の際の周辺パトロールと、広範囲に効果的な活動が可能となりました。

JR大津駅の清掃活動



7

この写真は JR 大津駅の清掃活動を、老人クラブのメンバーと一緒にしているものです。

大津小学校でタウンポリス紹介



8

これは大津小学校でタウンポリスのメンバーの紹介と、登下校時の交通安全や不審者について指導しているものです。

不審者情報設置看板



9

警察署の不審者情報により、気をつけなければならない場所に注意看板を掲示しています。

大津小学生感謝の寄せ書き



10

これは大津地区タウンポリス 10 周年記念誌作成にあたり、小学生に寄せ書きをお願いしたものです。

令和 6 年で、大津・介良・長崎地区タウンポリス結成から 21 年、大津地区タウンポリス結成から 16 年が経過し、活動する会員の最高年齢は 86 歳、平均して約 75 歳を超えました。その中でも時折、青パトの助手席に乗る女性隊員は「運転がうまいね、素敵」と褒め称える役割に徹し、それに奮起した男性メンバーは「まだまだやるぞ」とやる気を出して元気に活動しています。

大津小学校通学路パトロール



11

環境浄化活動として、JR 大津駅の駐輪場の整理整頓、落書きの処置、危険場所への防犯看板の設置を行っています。また、高齢者を狙った振り込め詐欺の注意喚起、児童生徒や住民同士の挨拶運動の啓発に取り組んでいます。

大津中学校周辺のパトロール



12

近年、スマートフォンやタブレット端末を使った子どもを取り巻く環境は年々悪化していることや、児童への声かけ事案や高齢者を狙った特殊詐欺事件は一向に減少する状況にないようです。今後、タウンポリスはさらに会員を勧誘し、住民と対話を図り、関係機関・団体・学校と一層の連携を密にしながら、地域のニーズに応える活動計画を策定し、柔軟性のある地域安全活動に努めてまいります。

「まだまだやるぞタウンポリス」を合言葉に、「気楽に、気長に、安全に」とお互いを励まし、いたわり、女性隊員から褒められながら頑張ろうと思っています。

ご清聴ありがとうございました。



ご清聴ありがとうございました

13

■ 講評・質疑応答

【福山大学 大杉 朱美 先生】

はい、大津地区タウンポリスの田所さん、ご発表どうもありがとうございました。最高齢の方が86歳で、そして平均年齢が75歳というお話をお聞きしまして、それでも「まだまだ頑張るぞ」というお言葉があり、ものすごく、その下の世代におります私も頑張らなきゃな、と思った次第です。ありがとうございました。

色々な活動をされているということで、見守り活動から浄化活動、広報啓発活動も様々されているということでした。お写真を拝見しまして、不審者の注意看板を作成されている、あるいはチラシを作成されているというお話があったかと思います。看板がものすごく立派なものが作成されているなど思ったんですけれども、どういう経緯で作成され、そちらに設置するに至ったのか、少しお伺いしたいなと思いました。

【発表者（田所氏）】

やはり、うちの近くに中央高校という看護学校があり、その女子生徒なんか頻繁に通るので、不審者の情報が警察から来たりするわけです。だいたい、舟入川沿いの堤防沿いが危ないとか、不審者が出やすいとか、そういう地域を警察の方から聞きまして。それならば、注意喚起には不審者も含めてそういう看板を設置することで、不審者もそれによって少なくなるとかいうことでもあります。不審者への注意喚起と、生徒さんの注意喚起も含めてですが、それはある程度、プラスチックのパネルで作っても、うちは年間3万円くらいしか予算はないですけど、なんとか一年に何枚かなら作れたりしますので、それで作って設置するようにしています。警察からの不審者情報で「このあたりに出た」と聞けば、なるべくその場所に設置するようにしています。

【福山大学 大杉 朱美 先生】

ありがとうございます。予算の方も、先ほどから予算の話ばかりで申し訳ないんですが、気にはなっていたんですが、年3万円でもあの立派な看板ができるとおっしゃっていただいて、すごく心強いと言いますか、できることはたくさんあるなど改めて思いました。どうもありがとうございました。

加茂安全パトロール隊（島根県）

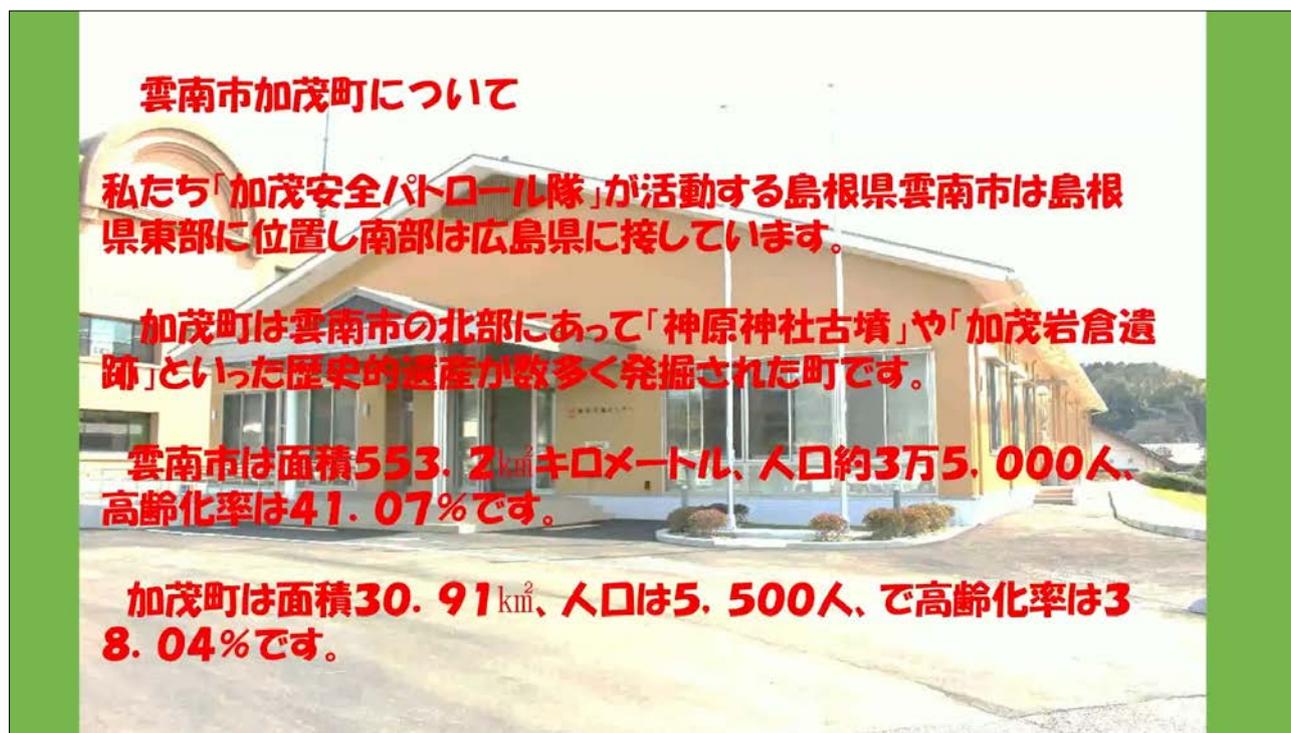


皆様こんにちは。加茂まちづくり協議会会長の広野でございます。

私、心臓が弱くて、アドレナリンが出るようなこのような発表は非常に苦手ではありますが、頑張って発表したいと思います。よろしくお願いします。

本日は、防犯ボランティアフォーラム中国・四国ブロックという貴重な場におきまして、私たちの「加茂安全パトロール隊」の防犯活動についてお話しさせていただく機会をいただき、誠にありがとうございます。関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

私たちの活動は日々の生活の中で地道に続けているもので、決して派手ではありません。しかしながら、地域の皆さんが安心して暮らせるためには欠かせない大切な取り組みであると考えております。今日はその内容をできるだけわかりやすく、具体的にお伝えできればと思っております。



まず、拠点となる島根県雲南市加茂町について紹介させていただき、続いて活動の背景となる「加茂まちづくり協議会」について説明させていただきます。

加茂町は島根県東部に位置する雲南市の中の北部にあり、総面積 30.91km²、人口は約 5,500 人で、高齢化率は 38.04% で島根県平均より若干高いといったところであります。

新しい地区計画のポイント



1. 住民の声を反映した計画づくり
2. 地域自主組織としての基本活動
3. 地域自主組織だけでは解決できない課題には他団体と連携してチャレンジ
4. より多くの住民が関心をもち、生き生きと参加出来る地域づくり



加茂まちづくり協議会では、「ずっと住みたい加茂」というスローガンを掲げ、地域住民の皆さんとともに安心して暮らせる持続可能なまちづくりを目指しており、その目的達成のため、令和4年に「加茂まちづくり計画」を策定する際には、四つの新しい地区計画のポイントを定め、七つの基本活動を構築しました。

加茂まちづくり協議会の基本活動7項目 ～ずっと住みたい加茂を目指して～

加茂交流センター



1. 地域づくりの運営、体制づくり

2. 地域活性化事業

3. 地域福祉・健康づくり

4. 生涯学習・子育て支援

5. 安全安心なまちづくり

6. 地域行事の運営

7. 環境保全・美化活動



一つには、地域づくりの運営体制づくり。

二つには、地域活性化事業。

三つには、地域福祉・健康づくり。

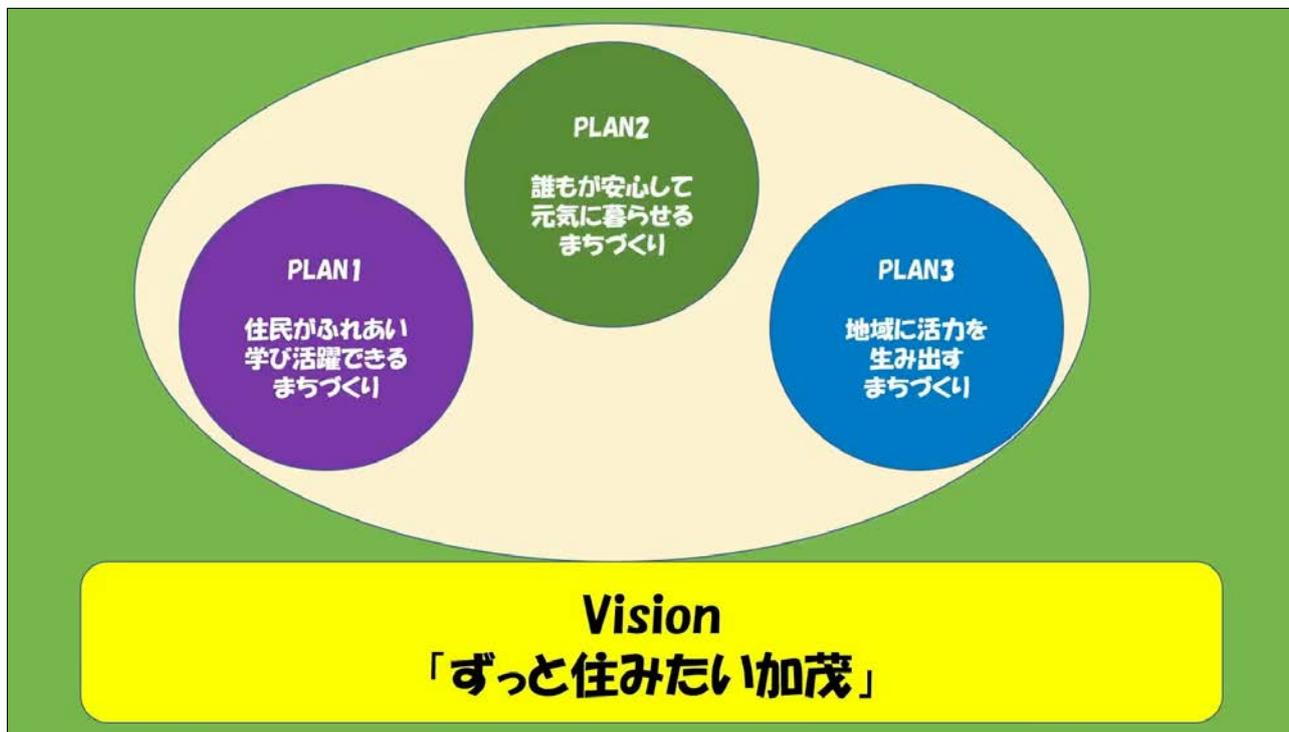
四つには、生涯学習・子育て支援。

五つには、安全安心なまちづくり。

六つには、地域行事の運営。

七つには、環境保全・美化活動
であります。

その後も加茂町に住む方たちを対象にアンケートを行ったり、意見交換会を実施したところ、さまざまな課題が見えてきました。この課題をもとに考えた結果、「ずっと住みたい加茂」という目標に向けて三つの活動プランが生まれました。



三つの活動プランというのは

一つには、住民がふれあい、学び、活躍できるまちづくり。

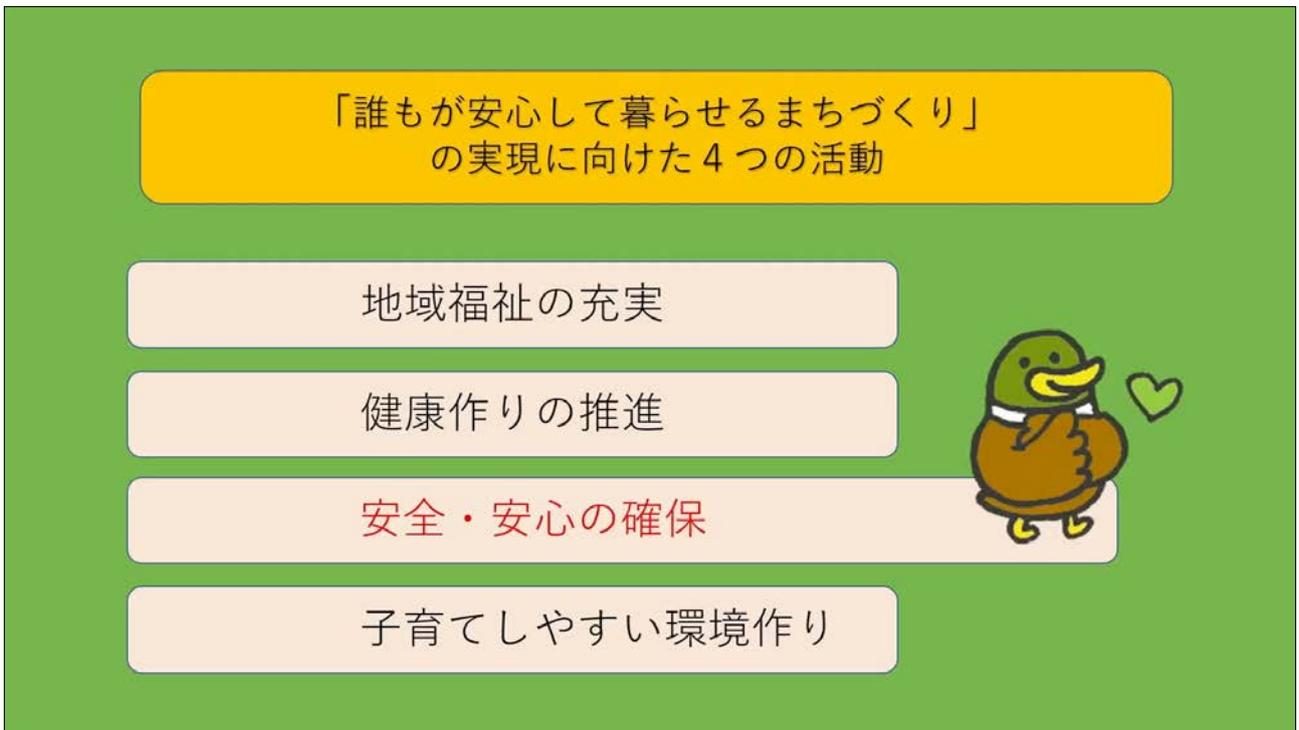
二つには、誰もが安心して元気に暮らせるまちづくり。

三つには、地域に活力を生み出すまちづくり
です。

これらのプランをもとに活動することで、「ずっと住みたい加茂」の実現に向けてチャレンジ
しています。



私たち加茂安全パトロール隊は、プラン2の「誰もが安心して元気に暮らせるまちづくり」の中でも、「安全安心の確保」という項目に関わっています。このプランには、具体的に以下の四つの活動が含まれています。



活動の一つ目は、地域福祉の充実です。これは、高齢者の暮らしを支える活動や住民同士の助け合いの仕組みづくりで、草刈りや除雪ボランティアです。

活動の二つ目は、健康づくりの推進です。大人の遠足や親子参加型の食育教室の開催です。

活動の三つ目は、安全・安心の確保です。住民が安全・安心に暮らしていくための取り組みを進めています。

加茂安全パトロール隊のみまもり活動

「連携」と「チャレンジ」を合い言葉に「地域を良くしたい」と願う仲間
の輪を広げ地域の課題解決に向け
チャレンジしています 🙌



島根県雲南市加茂町 加茂安全パトロール隊

この安全・安心の確保の中に、加茂安全パトロール隊の活動があります。

加茂安全パトロール隊の概要

1. 加茂安全パトロール隊の発足

加茂安全パトロール隊の発足は平成●●年●●月です。
それまでは、いろいろな防犯組織が個別に活動していたのですが、これ
らの組織を1つにまとめ加茂安全パトロール隊を結成しました。

2. 加茂安全パトロール隊の構成

加茂安全パトロール隊は、加茂まちづくり協議会を母体とし、この
協議会の安全安心部門を担っています。

加茂安全パトロール隊の構成は、加茂町に拠点を置いて活動をして
いる

加茂地区民生児童委員協議会・島根加茂ライオンズクラブ
地域安全推進員・駐在所連絡協議会員

です。



児童の登下校時の安全パトロール活動、地域の防犯パトロール活動です。

隊員約80名が毎年130回を超えるパトロールを実施しています。こうした活動が評価され、令和2年には県知事、4年には県警本部長から表彰を受けています。パトロール内容は、隊員2人が1組となり、週2～3回あらかじめ決めてあるルートを回り、特に影になり見えないところや公衆トイレの確認、安全に下校しているかの確認など、くまなく見回っています。

活動の四つ目は、子育てしやすい環境づくりです。「子育てのしやすい加茂」を目指し、子どもや保護者への支援を充実させます。

こうした見回り活動を続けてまいりましたが、この活動を始めてから、すべてが順調に活動できたわけではなく、課題も見つかりました。



活動を行う際の一番の課題というのは、やはり人材の確保という点でした。お金や設備も重要ですが、雲南市も他地域と同じように高齢化、少子化、転出超過という状況にあります。加茂町は雲南市内では人口減少は緩やかな方ですが、それでも以前に比べたら減ってきています。加茂安全パトロール隊も他の団体同様に、防犯ボランティアの人材確保が最重要課題でした。そこで、課題解決に向けて取り組みを検討し、次のような対策を講じました。

解決策



1. ボランティア団体をまとめる

2. 効率的な防犯活動

3. 若手隊員が参加できる工夫



一つは、ボランティア人材の確保です。この団体結成前には、加茂まちづくり協議会、加茂地区民生児童委員協議会、加茂ライオンズクラブ、加茂駐在所連絡協議会などの団体がそれぞれ独自に活動していました。

1. ボランティア団体をまとめる

加茂安全パトロール隊結成前には、4つのボランティア団体が、それぞれに活動していたものを1つの組織にまとめました。

このため、80人を超える防犯ボランティアを確保することができました。

防犯ボランティアの人数を確保したことで、一人あたり1年間数回のパトロール回数となりボランティア一人一人の負担を減らしながらも十分な活動を行うことが出来るようになりました。

平成27年にこの団体を一つにまとめて「加茂安全パトロール隊」という団体を結成しました。四つの団体をまとめたことで、常に80人を超える防犯ボランティアを維持することができるようになりました。80人を超える人員を確保できたことで、青パトを使用してのパトロールは、一人当たり年間数回の活動回数となりました。

2. 無理のない効率的な防犯活動

島根県防犯連合会から貸与を受けた「宝くじ号」を青パトとして登録しました。

パトロール隊員は、この「宝くじ号」に2名で乗車してパトロールを行っています。「宝くじ号」の貸与を受けるまでは、各隊員の所有する車

両を青パトに登録して使用していました。

現在、加茂安全パトロール隊が証明を受けている青パトは「宝くじ号」だけです。

事務局の負担軽減、各隊員の負担軽減が図られ、無理のない活動が継続できています。

一人一人の負担を減らしながらも、十分な活動を行える無理のないボランティア活動を続けています。

3. 若手隊員が参加できる工夫

夕方からのパトロールも可能で、現役世代が参加しやすいように工夫しています。

加茂安全パトロール隊に所属している団体には、若手・現役世代も含まれていて、世代交代をスムーズに行えるよう工夫しています。

活動の様子は、加茂まちづくり協議会広報に載せていて青パト宝くじ号でパトロールすると子どもたちが手を振ってくれたり、大人もお辞儀をしてくれたりとします。

地域の皆さんに私たちの存在が浸透し、必要とされていることが実感でき、更なる活動の原動力となっています。

また、青パト隊を構成する団体には現役世代・若手も含まれていることから、夕方からパトロールを行うこともできるようにし、現役世代が参加しやすい工夫をすることで、世代交代をスムーズにできるようにしています。

また、「宝くじ号」には拡声器が搭載されていて、児童の見守り活動を行いながら、拡声器を使って、特殊詐欺被害防止広報を行ったり、鍵かけを呼びかけるといった効率的な防犯活動を行っています。



もう一つは、効率的な防犯活動です。

島根県防犯連合会から平成31年に「宝くじ号」の貸与を受けました。この宝くじ号を青色回転灯装備車両に登録し、パトロール隊員は宝くじ号に乗車し、児童の見守り活動を行っています。宝くじ号は拡声機を搭載していますので、児童の見守り活動を行いながら、拡声機による特殊詐欺被害防止に関する広報活動をしたり、鍵掛かけを呼びかけるといった効率的なパトロール活動を行っています。さらに、加茂安全パトロール隊が登録する青色回転灯装備車両は宝くじ号のみです。宝くじ号登録以前は、個人の車両の変更等の事務処理を事務局が行っていたのですが、宝くじ号のみとなったことで、事務局の労力が大幅に削減されました。

私たちは、この防犯パトロールの意義を次のように捉え、活動のモチベーションとしています。

一つ、地域一体となった犯罪抑止力の強化。青パトが地域のあちこちを巡回していることにより、犯罪者にとって入りづらい地域という印象を与えます。また、これは警察の目だけでは行き届かない隙間にまで地域の目が届くことを意味し、総合的な防犯効果が高まります。防犯は警察任せではなく、地域全体で守る時代です。

二つには、「安全なまち」の意識が地域に定着する。地域ぐるみで活動することにより、住民一人一人が自分ごととして防犯を考えるようになります。子どもから高齢者まで防犯意識の底上げが可能になり、「安全文化」が根付きます。

三つには、世代を越えた連携とつながりの創出。パトロールには高齢者、現役世代、若年層などが関わることが多く、世代間の交流の場としても機能します。これは孤立防止や地域福祉にも波及効果があります。

四つには、地域課題の気づきの場になる。パトロールの過程で、街灯の不具合、空き家の荒廃、不審な動き、野生動物の痕跡などを発見できる機会が増えます。防犯だけでなく、生活環境全体を守る「目」としての役割も果たせるのです。

五つには、子どもたちに「安心」と「信頼の大人像」を見せられる。地域の大人たちが一緒に見守っている姿は、子どもたちに安心感と信頼を与えます。それは「地域の一員としての意識」を育て、将来の担い手を育てる土壌にもなります。

六つには、その結果、地域全体で守るまちこそ、住み続けたくなるまちになるということです。青色防犯パトロールを地域ぐるみで行うことは、単なる「防犯活動」にとどまらず、地域の絆、住民の誇り、安心して暮らせる社会づくりという「地域力」の基礎づくりに直結する取り組みです。

青パトを搭載した宝くじ号でパトロールをすると、子どもたちが手を振ってくれたり、大人の人も会釈をしてくれるなど、地域の皆さんに私たちの存在が浸透し、必要とされていることが実感できます。これがまた、さらなる私たちの活動の原動力となっています。

こうしたことにより、課題に取り組んだ結果、現在では安定した活動を行っています。最近では犯罪に対しては当然目を光らせないとはいけませんが、各施設の老朽化が進み、それによる安全が阻害される懸念や、これも話題になっておりますが、クマをはじめ、野生動物の出没など、我々の生活に脅威を与える事案も発生しています。多様化する危険に対し、地域の安全を守る担い手として、私たちの活動がさらに重要になってくると思いますので、さらに身を引き締め、地域の安全安心のために活動を続けていきたいと思っております。

最後に、本日はこうした機会をつくっていただき、改めて御礼申し上げます。今後も「ずっと住みたい加茂」の実現に向け、地域とともに歩んでまいります。以上で、加茂安全パトロール隊の活動の発表とさせていただきます。ご清聴、誠にありがとうございました。

■ 講評・質疑応答

【福山大学 大杉 朱美 先生】

はい、加茂安全パトロール隊の広野さん、どうもご発表ありがとうございました。課題解決に向けた取り組みについて、他の皆さんもすごく参考になったというふうに思っているんじゃないかなと思いながら聞かせていただきました。「地域全体で守る時代なんだ」とおっしゃっていただきましたけれども、すごく心強いですし、私も一住民として、すごく素敵な団体だなと感じました。

すごく組織化がしっかりとされているなという印象を持ちました。まちづくり協議会として色々な団体をまとめていく中で、加茂安全パトロール隊を紐づけて活動されているというところで、その部分がとても人材の確保だったり、多角的な視点で色々な活動をされているところにつながっているんだなと思いながら聞かせていただきました。

二点お伺いできればなと思っております。一点目は、小さな質問なんですけれども、所々にカモの可愛いキャラクターが発表の中にも登場していて、素敵だなと思ったんです。このカモのキャラクターをどういうふうに活用されているのかなと。すごく効果的だなと感じるんですが、キャラクターの活用について何か意識されていることがあれば共有していただければと思います。

【発表者（広野氏）】

あのキャラクターは、このまちづくり協議会の地区計画を策定した時だったのではないかなと思っておるんですけれども、このキャラクターをあらゆる場面で、こうした活動をお話する際の資料に添付いたしましたり、地域の皆様方にお配りするチラシ等にも積極的に活用したりしています。また、私どもは毎月1回広報誌を発行しておりますけれども、その広報誌の中にこのキャラクターを織り込みながら、このキャラクターが「加茂のキャラクター」ということになるよう定着するように努めております。

【福山大学 大杉 朱美 先生】

はい、ありがとうございます。すごく親しみやすく、活動についても知ってもらえるような存在として使われているというところで、素敵な使い方だなと思いました。

もう一点目なんですけれども、色々な世代を含めて活動していきたいので、現役世代の参加のしやすさを考えてやっています、というふうにお話しいただきまして、素晴らしいなと思ったわけです。その現役世代の参加のしやすさを考えて、どういうふうに現役世代を巻き込んでいるのか、知りたい方がたくさんいらっしゃるんじゃないかなと思いますので、そこも少し具体的に教えていただけたら嬉しいです。

【発表者（広野氏）】

加茂町は、現役世代も高齢者もみんな一つの組織として取り組んでおりますけれども、若い方を意識して取り込んでいるというわけではございませんで、例えば、これは安全パトロールでございますけれども、うちには「除雪ボランティア」というのもございます。で、こういうことに、「こういう活動をしたいたくさんだけれども、賛同いただける方、お出かけいただけませんか」という

声がけをしますと、我々が必要とする人員がその段階で集まっていただけます。中には、こういう活動に対して否定的なお考えをお持ちの方もいらっしゃるでしょうけれども、少なくとも、例えばこの活動をするのにこのくらいの人数がいるなど考えた時に、「この指とまれ」という感じです。

【福山大学 大杉 朱美 先生】

止まってくれるということですね。素晴らしい。なるほど。防犯に限らず、色々なまちづくりのイベントや行事の中で世代を巻き込んでいく、そこから防犯にもつなげていくというイメージでよろしかったでしょうか。

【発表者（広野氏）】

そうですね。特に意識して「若い人、若い人」と言っていたら、どこの地域も同じでしょうけれども、若い方ってやっぱり少ないんです。そういう地域に残っていらっしゃる方の中で、出かけやすい方から出ていただいて、その地域の中で少しでも地域貢献していただけませんかね、というようなところだと僕は思います。お年寄り、高齢者の皆様方は非常に元気で、最近では80歳になっても元気な方がたくさんいらっしゃいます。そういう方が積極的に参加いただけるというところもございます。なので、そういったことでメンバーを集めるということでの苦勞というのはさほどのことはしていません。

ただ、僕は一つだけ、この活動、「ボランティア」という言葉の中で思いがあるのは、ボランティアというと、これがすべて無償の精神ということになるわけですがけれども、僕はこの活動、「無償」という言葉があまり好きではございません。本当は休みの日とか早朝とか夕方とか、自分の時間を潰してお出かけいただく皆様方に対して、やはりそれなりの対価をお支払いするのはありかなというふうに思っています。ただ残念なことに、それをするだけの原資が今、我々にはございません。それができるように、今、地域を上げて、我々組織の中で検討しているところでございます。

【福山大学 大杉 朱美 先生】

はい、どうもありがとうございました。